

理事に就任して

基礎地盤コンサルタンツ株式会社東北支社長

永川 勝久



はじめに

令和3年10月に東北地質調査業協会の理事を拝命しました基礎地盤コンサルタンツ株式会社の永川勝久と申します。

東北は全くの初めての勤務となります。でもすでに、温かい人柄、おいしい食べもの、そして何よりも数多くの日本酒に触れ、単身赴任の身にはとてもいい環境を満喫しています。本業の協会の活動は新型コロナの影響もあり、まだ完全には思った以上の活動出来てませんが、東北地質調査業協会の会員として、微力ではございますが、東北地方の発展に寄与できるよう取り組んでまいります。どうかよろしくをお願いします。

自己紹介

1967年福岡県筑紫野市（写真-1参照）に生まれます。その後、タモリさんと同じ高校を卒業し1987年に某国立大学に入学、地質屋としてのスタートを切ります。



写真-1 生まれ故郷（福岡県筑紫野市）

なぜ、地質を目指したか、振り返ってみますと、幼いころから地球や宇宙に興味を持っていました。地球はいつ頃どう

やってできたのか、宇宙の果てはどこにあるのか、考えてもわからないことを知りたいという欲求が強かったように思います。いまでも、その性格は変わっていないようで、地質調査時は、仕事とは関係ない綺麗な石や岩、そして植物や人、方言等に興味を持ちながら歩いています。このような「知的好奇心」が多少他の方よりも強く、この業界で今までやってきたのかなと勝手に思っています。

1993年に現在の基礎地盤コンサルタンツ株式会社に入社し、九州支社の福岡に配属となります。その後、大分事務所の往来後、2015年にはじめて関門海峡を渡って本州へ足を踏み入れ関西支社へ配属となります。その後は、短いスパンで関東支社、本社を経験し、現在の東北支社に至ります。

入社間もないころは、作るための地質調査（写真-2参照）として、ボーリング調査の現場管理とその取りまとめが主体でした。今の私の原点だと思います。オベさんとの寝泊りで、現場技術知識やその重要性、地元住民の方との接し方等いろいろ学ばせて頂きました。楽しかったこともあります、本当に辛かったことも思い出されます。でも、その辛さは、時間が解決、自慢できる現場経験だったように思います。



写真-2 調査中の一コマ 1.
別府での道路地質調査中に突然噴気



写真-4 調査中の一コマ 3.
フィリピンでのボーリング調査状況
(ボーリングマシンを上下させる掘り方)

その後は、阪神淡路大震災、熊本地震（写真-3参照）等の災害調査や地質リスク、海底資源調査、地層処分に絡むナチュラルアナログ（写真-4参照）や文献調査などの比較的規模が大きいプロジェクトから地質百選やジオパーク等のボトムアップ的プロジェクトのサポート、大学生や一般市民の方への防災教育に対する啓蒙活動、クルマエビやべっ甲トンボ等の生態系調査等、自分の専門・専門外、国内・国外はじめいろいろと経験させて頂きました。今後はこのような経験を若手に教えたいという欲求が芽生えてきています（後述 お気に入りのことば参照）。

このように我々地質調査会社の仕事の大部分は、社会資本のインフラ整備に関わる陸・海からの地質調査が多いですが、最近では空からのリモートセンシング技術（図-1参照）を活用したインフラ空間整備事業が多くなりました。この技術を活用することにより、我々の現地機械搬入時のリスクや成果そのものの一次データの知見等が得られるようになってきました。とくに、最近の測量技術として、現地で簡単に点群データの取得技術とその見える化処理が活発になり、今後は測量業界との密接な連携が必要不可欠ではと思っています。



写真-3 調査中の一コマ 2.
熊本地震での地割れ（途方に暮れる筆者）

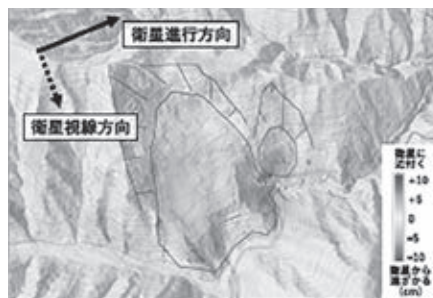


図-1 衛星SARを活用した地すべりブロック動態評価

お気に入りのことば

先日閉幕した2022FIFAワールドカップで、「新しい景色」を見ることは叶いませんでしたが、最後まで諦めない選手たちから夢と希望を感じられずにはられませんでしたが、我々の業界で「新しい景色」は何か、何を目指してい

るのか改めて自問自答した瞬間でもありました。

その中で特に気になっているのが、人材の育成です。現在は、急速にデジタル技術が進化していますが、熟練技術者の経験や知識などすべてはデジタル化できないだろうと思っています。我々が経験したアナログの思考や成果をこれからのZ世代に引き継いで行くためには、デジタルとアナログの融合が必要で、そのバランス感覚が重要ではないでしょうか。個人的思想ですが、技術innovationは過去の技術を基礎とし、その技術を繰り返すことにより（PDCAサイクル）、新たなループサイクルにステップアップすると考えています。嫌がられるかもしれませんが、過去の技術の繰り返し、共有化が重要と思い、とくに若手技術者に向かって発信する日々を繰り返しています（変わらない思想と変わるべき技術）。

まだまだ、おしゃべりしたいですが、紙面が厳しくなってきました、最後に以

下の文面でさせていただきます。

東北に赴任して、あっという間に一年が過ぎ去ってしまいました。私にその能力はありませんが、「CN（カーボンニュートラル）」と「Nature positive（ネイチャー・ポジティブ）」に向かって持続可能な社会形成のために役に立ちたい、役に立てる技術者、業界であることを信念に努力して参りたいと思います（図-2参照）。

また、プライベートではまだまだ東北のいいところを満喫したい思いです。素敵な場所や美味しいところあれば、教えて頂けると有難いです。近いうちに皆さんと大好きな日本酒も頂きながら、お話できることを期待しています。東北を新たなふるさととして、東北のために少しでもお役にたてるよう、日々努力してまいります。今後とも皆様のご協力、ご鞭撻を賜りながら、頑張ります。何卒よろしくお願いいたします。

ブラボー 東北！

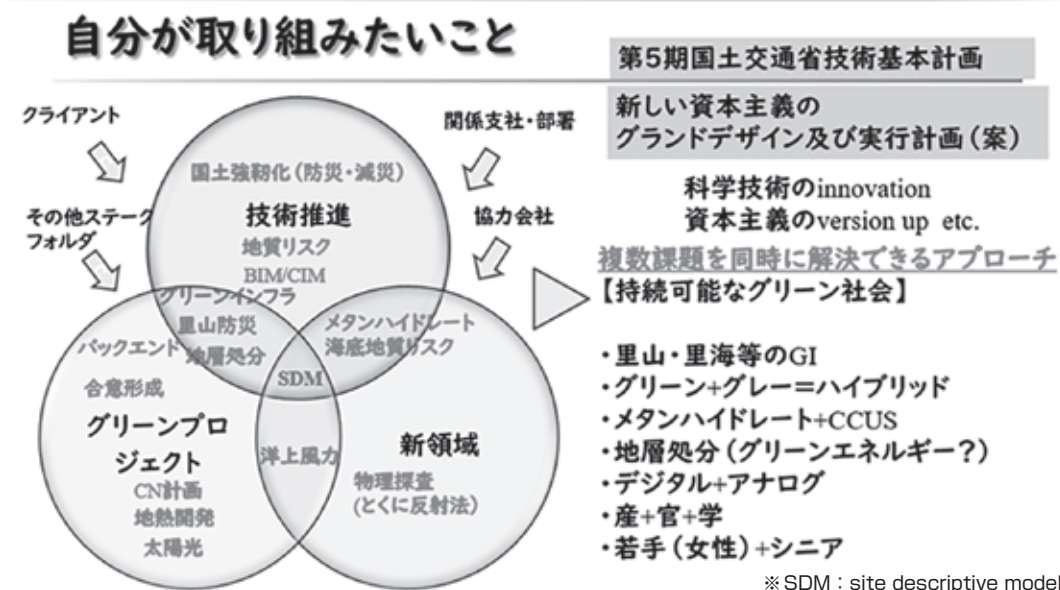


図-2 これからの自分が取り組みたいこと